

はじめに

平成31年1月11日吉日。待望の市民交流センター tette がオープンした。天気は開館を祝うように快晴。たくさんの市民が押し寄せ、建物の中も外も人の波で溢れた。何年ぶりだろうか。子どもの頃に見ていた街なかの賑わいを彷彿させた。

須賀川の街は、戦国時代、江戸時代、明治時代に、町中が火の海になるような大火に見舞われている。先人たちは、これら幾度の困難を乗り越え、立ち上がり、復興してきた。

そして平成の世に、東日本大震災に遭遇し、多くの家屋が被災するなど甚大な被害を受けた。防災の拠点となる庁舎をはじめ、多くの公共施設が使用不能となった。原発事故による放射能汚染というこれまで誰も経験したことのない災害も重なり、出口の見えないトンネルの入り口を前にして、我々は、再び立ち上がった。単なる復旧ではない、創造的復興を目指して。

この冊子は、震災復興事業の重点プロジェクトである、市民交流センター tette の開館までの歩みをまとめたものである。

本冊子が震災復興の一つの記録として、また、公共施設の統合、複合化という時代の流れの中で全国自治体のプロジェクト推進の一助になれば幸いである。

目次

はじめに

須賀川市民交流センターとは	01
tetteの軌跡	03
1. あの日から始まった	04
2. 建築アドバイザーとの出会い	05
3. 建築家からの提案	06
4. 設計チームとの協働	07
5. 須賀川市民の1400の声をカタチに	08
6. テーマ配架への挑戦	10
7. 専任部署の整備室誕生と官民協働	12
8. かえりたくなる街の つくり方を考える	14
9. tetteの歩き方	15
10. 2つの運営	16
tette完成までのフォトダイアリー	18
tetteを形づくるもの	19
編集後記	22
tetteによせるメッセージ	23
POINT OF VIEW 定点からの記録 随想りレー ④	25

